公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ

第22回 中学生作文コンクール 表彰式

7512の作品が寄せられました

テーマ 私にできる気候変動対策

受賞おめでとうございます

文部科学大臣賞

山口県 萩光塩学院中学校2年 **岡本 唯花**

優秀賞

長野県 上田市立第四中学校3年 **石井 湊士**
山形県 山形県立致道館中学校1年 **伊藤 息**
東京都 東京学芸大学附属世田谷中学校1年 **太田 綾音**
徳島県 徳島県立城ノ内中等教育学校1年 **岡本 篤典**
香川県 さぬき市立さぬき南中学校2年 **香川 沙奈**
東京都 渋谷教育学園渋谷中学校1年 **久郷 咲友**
静岡県 静岡雙葉学園静岡雙葉中学校3年 **曽篠 史果**
福岡県 福岡大学附属大濠中学校1年 **原田 紗**
東京都 昭和女子大学附属昭和中学校3年 **柳田 真緒**

入賞

北海道 旭川市立愛宕中学校2年 **穴吹 瑠**
宮崎県 宮崎市立宮崎西中学校2年 **猪俣 和矢**
福岡県 福岡大学附属大濠中学校3年 **裏辻 陽翔**
茨城県 緑丘学園水戸英宏中学校3年 **大高 優真**
北海道 北海道教育大学附属函館中学校1年 **長部 芙羽**
大阪府 大阪市立北稜中学校1年 **佐伯 彩里**
岐阜県 中津川市立第一中学校3年 **下村 明日香**
愛知県 名古屋市立鳴海中学校1年 **高柳 大河**
東京都 渋谷教育学園渋谷中学校1年 **武田 梨々花**
岐阜県 岐阜市立草潤中学校2年 **立澤 瑠姫**
兵庫県 賢明女子学院中学校3年 **野中 麻央**
東京都 東京学芸大学附属世田谷中学校1年 **坂東 可奈子**
千葉県 千葉県立東葛飾中学校2年 **福島 萌椛**
京都府 ヴィアトール学園洛星中学校3年 **藤田 結悟**
鹿児島県 伊佐市立菱刈中学校2年 **堀之内 闘舞**
大阪府 大阪市立北稜中学校1年 **松島 花音**
東京都 東京学芸大学附属世田谷中学校1年 **神子田 芽衣**
大阪府 大阪市立北稜中学校1年 **三宅 由桂**
栃木県 宇都宮市立姿川中学校2年 **過足 さゆり**
福岡県 福岡市立高取中学校1年 **吉野 雅人**

受賞者と審査員の皆さんで記念撮影

受賞者が一堂に会し晴れの表彰式

第22回「中学生作文コンクール」の表彰式が昨年の11月30日、東京都内で開催されました。審査員による厳正な選考の結果、文部科学大臣賞1作品、優秀賞9作品、入賞20作品が決定しましたので紹介します。

表彰式の冒頭に、主催者を代表して公益財団法人イオンワンパーセントクラブの森美樹理事長があいさつをしました。

表彰状は、入賞、優秀賞、文部科学大臣賞の順に一人ひとりに授与されました。その後、優秀賞の伊藤息さん、曽篠史果さん、文部科学大臣賞の岡本唯花さんが受賞作品を朗読。緊張する場面ですが、しっかりと自分の考えを伝えることができ、会場内は大きな拍手で包まれました。

また、晴れの表彰式に臨んだ受賞者は「よい思い出になりました」「体験したことのない大きな舞台でした」と喜びました。最後に審査員から未来を担う中学生に向け、励ましのメッセージが寄せられました。

文部科学大臣賞を受賞した岡本さん

和やかな雰囲気の交流会

受賞者と審査員の交流会、特別講演会も

表彰式後は、交流会が催されました。緊張から解放された受賞者が、作家の汐見夏衛さんに作品づくりについて質問をしたり、教育アドバイザーの清水章弘さんに普段の学校生活について話したりと、審査員の先生方との会話を楽しみました。

その後、審査員の一人で気象予報士の依田司さんによる特別講演会（一般公開）が開かれました。テーマは「地球温暖化　私たちにできること」です。

気候変動が進み、異常気象が増えている現状をどう食い止めるかを語る依田さんの言葉に、参加者はうなずいたり、メモをとったりしながら熱心に聞き入りました。

力強い言葉で語る依田さん

公益財団法人
イオンワンパーセントクラブ
理事長　**森 美樹**

受賞された30名のみなさん、ご家族のみなさん、本当におめでとうございます。そして、お忙しいなか作品をすみずみまで何度も読み直し、評価してくださった審査員のみなさまには、心より御礼を申し上げます。

イオン1％クラブは、イオングループの利益の1％相当額をもとに子どもたちの健全な育成、諸外国との友好親善、地域社会への貢献、災害復興支援を主な事業として、環境・社会貢献活動に取り組んでおります。

この中学生作文コンクールは、子どもたちの健全な育成事業として、多感な時期と言われる中学生に、環境に関する社会問題をテーマに、自分自身の考えをまとめ、書く力を養うことを目的に2003年から実施しております。

みなさんの作品を読ませていただきましたが、普段から気候変動に関心を寄せ、わからないことがあれば自分で細かく調べるなど、とても丁寧に書かれていました。また、家庭や学校、地域の方と協力して環境問題への取り組みを実践しているなど、オリジナル性あふれる提案がなされた作品もありました。

みなさんが先頭に立って学校や地域の仲間たちと共に、より一層「私にできる気候変動対策」を考え、取り組みを牽引し、素晴らしい大人に成長されていくよう願っております。

公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ

第22回 中学生作文コンクール

文部科学大臣賞

朝顔が絶滅する日が来ないために

山口県 萩光塩学院中学校 2年
岡本 唯花（おかもと ゆいか）

中学生になって、二〇三〇年のSDGs達成の年を目前にしていることもあり、私の夏の自由研究は、世界中が抱える様々な問題・課題の解決とリンクするようになった。そして今年の夏、研究の一環として、私は一年ぶりに朝顔を植えた。スマホのトップ画面に、連日表示される熱中症警戒アラートの警告。地球温暖化で地球全体の平均気温は上昇し、厳暑の日々が続く。朝顔は熱ストレスに強く、日本の夏の象徴である。発芽を心待ちにするが、一向に芽が出てこない。発芽しない朝顔を目の前にし、猛暑での熱、乾燥の環境ストレスも、以前と同じレベルで考えていては、もはや対処できない現実を突きつけられた。

地球温暖化をはじめとする、人間の活動に起因する気候変動は、SDGs解決にも悪影響を及ぼしてしまう。暴風雨や災害、食糧・水不足等も悪化させてしまう。昨年、私はエシカルの視点を持って行動していこうと、自分ができることについて具体的に考えた。そして今、特に食糧危機に貢献できそうなアクションを二つ起こしている。一つ目は、生徒会副会長として、全校生徒に「食品ロスをなくそう」と呼びかけ、これを私の公約として掲げ、残食ゼロを目指している。主に給食の時間に働きかけていき、今後二学期に更に活動を充実させ、公約達成を図っていくつもりだ。二つ目は先述の、夏の自由研究での取り組みだ。昨年の研究では、深刻化している地球温暖化の影響で農作物の収穫量が減少していることと、SDGsの十七の目標である、「貧困や飢餓を終わらせる」という課題解決にも関連する「生物刺激剤」に着目して、比較・対照実験を行った。「植物の耐性がお酒でアップする効果」や、「生物刺激剤として植物の乾燥や高温耐性を高めるエタノールが注目されている」という内容の記事を、新聞で見つけたことがきっかけだ。私は、地産地消の視点から、山口県産ワインを刺激剤として用い、トマトと大根を育て、検証した。先述の研究の一環で植えた朝顔にも、生物刺激剤や手作りバイオスティミュラントを用いて検証し、今年の研究を深めたいと思っている。身近で低コスト・品種改良の必要の無い簡単な方法で、食糧生産を増やせる可能性を持つ刺激剤があれば、途上国でも導入し易い。SDGsの十七の目標「貧困や飢餓を終わらせる」という課題解決にも繋がっていくはずだ。

地球温暖化は、気温上昇により、大雨の被害や災害、紛争も悪化させる様々な気候変動を引き起こしている。動植物の生態系に被害が及べば、絶滅する動物も増えていく。農作物の収穫量、地球だけが持つ生物多様性も減少していく。何も対策をしなければ、奈良時代に日本に伝来した朝顔も、今後絶滅してしまうかもしれない。そんな日が来ることが決してないように、気候変動とその影響を軽減できるアクションを、私は起こしていきたい。

受賞した感想　学校で先生から受賞を知らされ、驚きました。帰宅後、家族に伝えたときに実感がわきました。表彰式での朗読は、賞をいただけたことを自信にして、みなさんにしっかり伝えられるようにがんばって練習してのぞみました。

優秀賞

私の普通

長野県 上田市立第四中学校 3年
石井 湊士（いしい みなと）

私の家には沢山のビンがあります。特に冷蔵庫の中はビンだらけです。牛乳はもちろん醤油やトマトケチャップ、マヨネーズなど調味料はビンに入ったモノを買っています。それが普通だと思っていました。しかし、友達が家に来た時「みなとの家はビン多いよね。普通、トマトケチャップやマヨネーズってチューブだよ。ビンは使いにくくない？」と言われました。あまり意識したこともなく、普通にビンの生活が溶け込んでいたため、友達に言われて初めてビンにこだわっている家族だと気付きました。そして、それと同時にビンで父とケンカしたことも思いだしました。

昨年のお正月、家の掃除をするため雑誌や空き缶などを近くの資源物回収所に持っていきました。当然、家にある大量の空きビンも持っていくものだと思い、勝手にまとめて持っていきました。そして、私が空きビンをリサイクルボックスに捨てると、それを見た父は慌てて、私が捨てた空きビンを拾い始めました。私は父の行動が理解できなく、ビンを漁る父が恥ずかしく、その場から逃げました。父は私が捨てた空きビンを回収すると、このビンはリサイクルに出してはいけないと私に説明しました。私の中では、父がどんな説明をしたか覚えていませんが、リサイクルにビンを出したのに怒られたことやビンを漁る父への恥ずかしさだけは覚えていました。そんなことを思い出しながら、なぜわが家ではビンにこだわるのか聞くと、「ゴミを出したくない」ただそれだけでした。

私の家で使われているビンはリユースビンという、繰返し使うことができるビンでした。空きビンは生産者に返して、きれいに洗浄され、中身を詰替えることで再利用されます。生産者同士も連携し、みんな同じビンを使っています。そのため、このリユースビンはみんなの共有物であり、財産だと説明されました。また、ゴミ問題の解決には3Rの優先順位が大切だそうです。リサイクルは再生利用のため、新しいモノに作り替える過程でCO_2が多く排出されたり、リサイクルの回収や分別の費用は沢山の税金が使われます。そのため、何でもリサイクルに出せば良いのではなく、まずはゴミを出さない、ゴミになるモノを買わない、そして繰返し使うことが重要と知りました。これらのことを知り、あの時のビンを漁る父の行動は、みんなのためにゴミを減らし地球環境を守ろうとしたことだと理解でき、私の中の恥ずかしい記憶は、少しだけ誇らしい記憶に変わりました。

正しい知識を持ち、私たちが何を選択するかで地球環境が大きく変わることをこのリユースビンから学びました。今の私は学ぶことしかできていませんが、地球のために正しい選択をしていき、私の家の普通が社会の普通になるよう、このリユースビンを多くの人に伝えていきたいです。

（参考文献／生活クラブHP　https://seikatsuclub.coop/activity/eco/green.html　生活クラブのえほん・りさとりた　https://seikatsuclub.coop/90ex/ebook/risatorita/）

受賞した感想　受賞を知り、びっくりしました。特に汐見先生の本を、作文を書く際の参考にしていたので、ご本人にお会いすることができたことが印象に残っています。

公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ

第22回 中学生作文コンクール

優秀賞

学校に薪ストーブを！薪ストーブ委員会を！

山形県 山形県立致道館中学校 1年
伊藤 息（いぶき）

皆さんの家から山は見えますか？その山の木は管理されていますか？日本の森林面積は国土の約七割で六〇年前から少しも変わっていません。豊かな森林資源を維持しているようで、実は大きな環境課題を抱えています。なぜなら森林の約四割を占める人工林は主伐期であるにも関わらず放置され、木材が有効活用されているとは言えない状況だからです。老齢化した森林は災害に弱く、二酸化炭素の吸収量も減ります。環境省によると二〇一四年度から二〇二〇年度のわずか六年で二二％も吸収量が減少しています。森林は重要な機能を持つ環境資源ですが、海外の伐採問題とは異なり、日本の人工林は今ある木を活用して植林する「循環」を作らなければいけません。国産材を住宅や工芸品に活用する動きはすでにありますが、家一軒、椅子一脚を作るだけでは残念ながら木を使い続ける仕組みにはなりません。

そこで僕は学校に薪ストーブを設置し、燃料として地域材を活用することを提案します。各学校で暖房器具であるヒーターやガスストーブをたった一台、薪ストーブに変えるだけで一日約二～三束、シーズン五ケ月で約四〇〇束（約２ｔ）の薪消費分の森林活用と、電気や灯油の削減が期待できます。二酸化炭素の排出量は従来の暖房機器に比べ、一シーズンで二五〇万ｔも削減できます。薪ストーブ設置費用に加え、木を切り出して学校に運搬する手間を考えると、化石燃料に頼る選択は非常に簡単ですが、気候変動は今すぐ僕らが身を削ってでも対策すべきところまで来ています。それは今年施行された森林環境税をみても明らかです。薪材の伐倒や運搬はプロに委託する必要があり、森林環境税をうまく活用できる事例になるはずです。プロの力を借りて今あるスギ・ヒノキを管理することに加え、中学生や地域住民も参加して、新たにコナラ・ミズナラなどのどんぐりができる木を適正な間隔で植えるという、一〇年、二〇年後の森づくりをしていきます。日本の高い林業技術を後世につなぎ、地域一帯の森づくりにこそ森林環境税を使うべきです。

僕は薪ストーブの設置に合わせ、学校に「薪ストーブ委員会」を設けます。薪を割り、管理し、火おこしや効率的な炊き方を探求して、仲間と汗をかいて楽しく温まりたい。設置場所は地域の集いの場になるといいし、災害時には火おこしがきっと役立ちます。自分たちで植林したところが「僕らの森」と呼べる森に育っていくのは、どんなにワクワクすることでしょう。気候変動は世界規模のものですが、日本で、僕らの地域で、学校生活でできることは必ずあります。実は山から切り出した木を薪にしても、約一年乾かさなければ使えません。つまり僕が割った薪は後輩が使うのです。後輩たちのために薪を割り、薪と一緒に森林の大切さも、それを守る使命のバトンも渡していきたいです。

（参考文献／鶴岡市HP　https://www.city.tsuruoka.lg.jp/sangyo/forestry/nousan20230517.html　『めざせ！持続可能な農林水産業３　ゆたかな自然環境とともにある林業へ』〈大月書店〉）

受賞した感想

作文を書くときに、親に話を聞いたり、読んでもらったりしていたので、受賞してよかったねと言ってもらいました。表彰式での朗読は緊張したけれど、大勢の人に言いたかったことだったので、読めてよかったです。

優秀賞

「もったいない」どころの騒ぎではない

東京都 東京学芸大学附属世田谷中学校 1年
太田 綾音（おおたあやね）

「食べ残しはもったいない。」これは、私達が幼い頃から教えられてきたことである。家庭でも学校でも、「食べ物を粗末にしてはいけない」という言葉をよく聞く。しかし、食品ロスが「もったいない」に加え、燃やすと二酸化炭素、埋めると二酸化炭素の二十八倍の温室効果を持つメタンを排出することを知っている人は、どれくらいいるだろうか。

調べると、政府間パネル（ＩＰＣＣ）は、食品ロス由来の温室効果ガス排出量は、全体の排出量の八～十％を占めていると発表している。そして、それは自動車の排出量とほぼ同じ量であることを知り、とても驚いた。

地球環境への影響を軽減するためには、一人ひとりの食品ロスに対する意識を高め、食品ロスを少しでも減らすことが必要だ。

例えば私の家族は、ビュッフェスタイルのレストランでは、どんなに美味しそうに見える料理でも少量ずつ取り、本当に気に入って、もっと食べられるとわかった後に、もう一度取りに行くようにしている。ある時、若い男女のグループが、山のように盛り付けて写真を撮り、ほとんどを残して去っていくのを目撃した。「なんてもったいないことをするのだろう」と、胸が痛んだのを覚えているが、今から思えば、あれも「もったいない」どころの話ではなかったのだ。

スーパーマーケットなどの食品売り場に行くと、沢山の食品をいつでも、いくらでも買うことができる。このように食料的に安定していると、食品を廃棄することに大きな罪悪感を抱くことが比較的少なく、先ほど述べたような事が起きるのかもしれない。しかしこれからは、食べ物を無駄にすることが、近年の気候変動の原因になっていることを理解することが必要だ。そして、私たち一人ひとりの小さな行動が、大きな変化を生む一歩となることを知らなければならない。

こんな取り組みはどうだろう。名付けて、「食べ切りエコポイントシステム」である。このシステムでは、飲食店できれいに食べ切った一度の来店につき、一ポイントが付与される。そして、そのポイントが一定数貯まったら、魅力的な景品と交換できるのだ。この景品は、環境に係る負担を軽減するようなものが望ましいだろう。例えば、五ポイント集まったらエコバッグ、十ポイントでドライヤーボール※などである。これらはエコなだけでなく、経費削減にもつながる景品なので、一ポイントでも多くもらえるように、飲食店での注文の際によりいっそう注意するようになるのは、私だけではないだろう。

食べ物を大切にする「もったいない」というこれまでの気持ちに加え、地球を守るためにも食品ロスを「本気で」減らそうとすることが、気候変動対策の第一歩となることを信じている。

※ドライヤーボール／乾燥機に入れることで洗濯物の乾きをよくするボール

（参考文献／朝日新聞SDGs ACTION!　https://www.asahi.com/sdgs/article/14444362　環境省HP　https://www.env.go.jp/earth/ondanka/ghg-mrv/overview.html）

受賞した感想

コンクールに応募したことがあまりなかったので、受賞はとても驚き、そのあとにうれしいなという気持ちがわきました。家族も一緒に喜んでくれています。授賞式で表彰状をもらったときは、喜びをかみしめました。

公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ

第22回 中学生作文コンクール

優秀賞

緑のカーテンで地球を守る

徳島県 徳島県立城ノ内中等教育学校 1年
岡本 篤典（おかもと あつのり）

家から外へ一歩出た瞬間。息が詰まる程の全身に熱風がもわっとまとわりつく様な暑さを感じる。今年の夏はそんな暑い毎日だ。命の危険を感じるような気温を体感し、私は地球温暖化をより身近な問題として捉えることができた。暑さから身を守るため、室内ではどこも冷房がガンガンに効いている。私の家でももちろんクーラーの効いた部屋で過ごしていた。オリンピックでも環境保全の為に、様々な取り組みが行われている中、人の安全や快適さと、地球の気候変動対策を上手く両立できないか、と考えるようになった。

そんな時、祖母の家に遊びに行くと、祖母の家は驚く程涼しく快適だった。祖母の家のクーラーの設定が低い温度なのかと見ると、私の家より二度も高かった。なぜこんなに涼しいのかと祖母に聞くと、あれかな、と窓の外の緑のカーテンを指差した。ヘチマとキュウリの葉がおいしげっていて、見た目にも涼しい。家庭科で学んだ緑のカーテンがこんなにも涼しいとは正直驚いた。私は祖母の家から少し分けてもらい、家にも窓の近くに緑のカーテンを作ってみた。思ったよりすぐ大きくなり、そこにチョウなどが飛んできたりして、やすらぎの効果もあった。そして私の家でも当初のエアコンの設定より一度高くしても十分涼しくなった。他の窓にも設置すればもっと設定を高くできると思った。調べてみると温度を一度上げるとCO_2を約8g削減できるらしい。消費電力を13％減らし、年間CO_2排出量を7・8kgも減らすことができるのだから、一人ひとりが実践すれば大きな力になると思った。

また、この体験で屋上緑化にも興味を持った。都市部に比べると私の住む徳島は緑が多く残っていると思う。しかし、一方で、人口が減少したり、若年層の都市部への流出などで、住んでいない住居や、使われていないビルなどが多く存在している。そこで、そのようなビルの屋上を緑化してはどうか、と考えた。ビルの屋上緑化は、気候変動への対策となるだけでなく、ビル自体の耐久性の向上や、紫外線による建物劣化の防止になる。緑化を地元の小中学生なども含めてボランティアで行うことで環境問題をより身近なこととして考えられるのではないか。

私が自分のこととして気候変動の問題を捉えられたきっかけも、この今年の暑さを実感し、何とかしなければ、と思えたからだ。やはり自分の体験を通すことで、人は動くことができると思う。だから私は、この今年の記録的な暑さを、チャンスと捉えて、小さな一歩でも一人ひとりが動き始めるきっかけになったら、問題の解決に向けて進むことができると思った。

当たり前に使っているエアコンひとつでも行動に移せば、ちりも積もれば山となると考え、よりよい未来のために行動していきたい。

（参考文献／グリラボHP　https://gurilabo.igrid.co.jp/article/776/）

受賞した感想　優秀賞をいただくことができてうれしいです。表彰式後の交流会がとても楽しかったです。緑のカーテンへの興味をきっかけに、徳島のビルの緑化が環境問題の改善につながるのではないかと思って、この作文を書きました。

優秀賞

みんなで一歩を踏み出せば

香川県 さぬき市立さぬき南中学校 2年
香川 沙奈（かがわ さな）

たった一人のたった一歩が大きく世界を変えると私は思っている。

私が気候変動に興味を持ったのは小学三年生の頃だ。ニュース番組をいつものように何気なく見ていた。そこに映ったのは、グレタ・トゥーンベリーさんが訴える様子と氷が解けたり山火事がおこっている映像で、その中の一番の被害者は、火傷を負ったりすみかを追われたりする動物だった。私は恐ろしいと強く思った。グレタさんは当時十六才で毎週金曜日に学校を休み、気候変動対策を訴える活動をしていた。私にもできることがあると思い、まずは本を読むことにした。得た知識を家族で共有し、できることから取り入れていった。見ていないテレビを消したり、洗顔の時やお風呂に入る時に水を少量にしたり止めたり、移動は自転車や歩き、公共交通機関を使うようになった。家族の意識も変わっていき、環境に関する情報を知った時にはみんなで共有するようになっていった。当時エアコン設定が夏は二十五度だったのが今では二十八度。歯ブラシの横になかったコップが、今では常に隣にある。点けたままだったテレビが今では見たいものがある時だけ点くようになった。おかげで家族との会話も増えた。

どうすれば広められるだろうと考えた私は、小学生の時に児童会長になった。そうすればもっとみんなで地球環境についての活動ができると思ったからだ。しかし結局実行できたのは、環境問題を訴える新聞一枚だけだった。この時、思っていたことが一つもできなかったという後悔が大きかった。今になり考えてみると、その新聞も捨てるとゴミになるので、もっと他に良い方法があるはずだと思う。

その思いを胸に中学生になった私は、生徒会役員になった。今は週に二回、環境放送をして全校生に自分にできることを発信している。他にも掲示板に紙を貼り、水質汚染を止めるためにできることを書いてもらった。これらは決して私一人の力ではない。賛同してくれるクラスメイトや生徒会役員の仲間や先生方の協力があってできたことだ。今、作文を書けているのも放送を聞いてくださった先生が勧めてくださったからだ。常にまわりの人への感謝を忘れず、自分にできることを考え、これからも活動していきたい。

「みんなで一歩を踏み出せば全校生徒全員分の三三〇歩です。南中から世界を変えていきましょう。」放送終わりの決まり文句だ。一人の力は小さいけど世界中みんなの力を合わせると計り知れないほどに大きくなる。私の小さな一歩が世界の大きな一歩につながると信じて行動を続けていきたい。

受賞した感想　学校で「環境放送」をしていたところ、先生から応募をすすめられました。自分のやってきたことを書けるのは魅力的で、せっかくだからと書き始めました。まとめたときは達成感がありました。受賞はとてもうれしいです。

公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ

第22回 中学生作文コンクール

優秀賞

継続すること

東京都 渋谷教育学園渋谷中学校 1年
久郷（くごう） 咲友（さゆ）

私は四人家族だ。両親と兄、そして私。家族の行動に注目するとあることに気が付く。

まずは祖父。私は時々、祖父母の家へ遊びに行く。祖父は、私の消し忘れた電化製品のスイッチをパチパチと消す。卓上スタンド、廊下、階段の照明。私の後ろについて、消すこともある。祖父に言わせると

「電気を大事にしているんだ。資源を無駄にしてはいけない。」

だそうだ。

次は母。母は、ごみの分別に厳しい。

「ヨーグルトの容器の周りの紙は可燃、容器はプラスチックごみに分類してね。」

と口うるさく言われる。

最後に兄。兄の趣味は家庭菜園。兄が育てた野菜はどれも新鮮でおいしい。兄は、

「生ごみが出たらとっておいて。」

と言う。生ごみを集めてどうするのかと思っていたが、兄から美味しい野菜を育てる肥料になることを教えてもらい、驚いた。

この三人は、環境について考える姿勢をもっている。節電、ごみの分別、生ごみを使った堆肥作り、それぞれが自分たちの立場でできることに取り組んでいる。一方、私自身はどうだろうか。正直、自分から取り組んでいるものがない。三人の姿や合宿で訪問した長野県の栄村の人々の生活を目の当たりにし、意識が変わった。

栄村は、農業が盛んで、住民のほとんどが自給自足の生活を営んでいるという。広大な農地からはたくさんの作物が採れるが、同時に野生動物からの被害も受ける。

「売り物にならない作物は、野生動物に分け与える。」

この言葉から、動物と共に生きる村の人の考えや食べ物を無駄にしない気持ちが伝わってきた。また、雪解け水を農業に使用したり、藁を集めて、編み、かごにして活用したり、生活のすべてが環境に配慮している。いわば村全体が、自然を大事に、感謝しながら生きているのである。

合宿から帰宅して、兄に生ごみの量について尋ねた。

「3093g」この数字は、夏休み中のある一週間、自宅から出たごみの量だ。つまり、一年間で約160kgも生ごみを出してしまう計算になる。1tの生ごみを焼却するのに2000kgの二酸化炭素が排出され、もし、その1tをコンポストに入れたなら、18kgの二酸化炭素の排出で済むという。コンポストを意識することは、気候変動を止めるための大事な一手になると確信した。また、数字を目の前にしてようやく兄の行う堆肥作りがいかに環境の保全に繋がっているかを理解した。堆肥作りだけではない。祖父の節電も母のゴミの分別も、すべてに意味がある。私は、電気の消し忘れはしない。ごみは進んで分別する。そしてコンポストで堆肥作りに協力する。今はこれらをしっかり行いたいと決意する。小さな一歩は大きな一手になると分かったのだから。

受賞した感想　受賞を知ったときは、とてもうれしかったです。表彰式での朗読を聞いて、学ぶことがありました。表彰式もエコツアーも、すべてが「環境」をテーマにしていたので、環境について改めて考えるきっかけになりました。

優秀賞

続ける、トクする、気候変動対策

静岡県 静岡雙葉学園静岡雙葉中学校 3年
曽篠（そしの） 史果（ふみか）

巨大化する台風や異常な猛暑、豪雨……。今や地球規模で気候が変動していることは明らかで、私たちは「今」できることを、「今すぐに」やらなくてはいけません。私にできる気候変動対策、それは『雨水』の活用です。

近年、干ばつなどに見舞われる国や地域も多いと聞きますが、幸い、日本はどちらかというと雨は豊富です。これらを単なる災いとして避けるのではなく、逆に気候変動対策につなげようという考えです。

具体的な行動として、まず、私は家族にお願いをして雨水タンクを設置してもらいました。雨水の有効活用や災害対策の観点から、様々な自治体で補助金などが出されていて、私の住む静岡市でも設置推進のための補助金もあったそうです。大きなタンクと小さなタンクの二個を設置してもらい、私は様々なことに活用しています。例えば、夏の水撒きです。昔から打ち水の効果が知られていますが、無料で、温暖化につながるようなデメリットもなく、まさに良いことづくめです。道路などのほか、最近はエアコンの室外機にもかけています。こうすることで、水分が蒸発する際に室外機の熱も吸収し、冷房効率が上がるのだそうです。もちろん、水やりにも使用します。雨水の方が植木に良いという話も聞きますし、二酸化炭素を吸収する植物を育てることも私のできる気候変動対策です。そして、意外な活用方法が、家族の手伝いで使う洗車用の水としての活用です。なんと、水道水よりも水垢が付きにくく、よりきれいになるのだとか。それを知った際、様々なコストや環境負荷がかかった有料の水道水よりもメリットがあるなんて、使わない手はないと思いました。

私は気候変動対策について、「自分もトクする」ことも大切だと考えています。環境対策、温暖化対策、気候変動対策というと、とにかく我慢したりなにかをあきらめたりして行うものが多い印象です。しかし、それだけではずっとは続かない気がするのです。すごく重たい荷物をなんとかして持つことができたとしても、ずっとは無理です。ずっと持っていられるように、続けられるように行う。それが私の気候変動対策です。

雨水の活用について、もう一つ忘れてはいけない大切な活用方法は「防災」です。近年、気候変動にも起因して様々な災害が発生していますが、雨水タンクの雨水は万一の際にも頼もしい味方になってくれます。トイレ用に使ったり、洗い物に使ったり、本来ならば下水管に流れ下水処理されるはずの雨水が私たちに「トク」をもたらすのです。

気候変動対策は、一人でも多くの人が、継続的に取り組まなくてはいけません。私は自分にも「トク」をもたらしながら、私の取り組みを知った多くの人が「私もやろう！」と思ってもらえるように、これからもずっと取り組んでいきたいと思います。

受賞した感想　受賞は修学旅行から帰った直後に知り、喜びで疲れがふっ飛びました。表彰式での朗読は緊張しましたが、立たせてもらった感謝と自分の考えを届けたいという気持ちでのぞみました。エコツアーも学びが多かったです。

公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ

第22回 中学生作文コンクール

優秀賞

昔ながらの知恵を生かして

福岡県 福岡大学附属大濠中学校 1年
原田 紗

ある日、私は祖母の家で不思議なものを発見した。祖母の家の大きな窓は、私の見たことのないもので覆われていたのだ。私が不思議そうにながめていた時、それに気付いた祖母が、これは「すだれ」というものだと教えてくれた。細い竹の枝のようなものが何本も束ねられて、きれいに一列に並んでいた。表面はつるつるしていて、そのすだれからは、割り箸を割った時のような竹のいいにおいが漂っていた。都会の雰囲気とギャップを感じるそんな見た目に私は興味を覚えた。家への帰り道に車から様々な建物を見てみると、驚くことに、そんなすだれを窓につるしている家が何軒かあったのだ。

私は、すだれについて調べてみることにした。すだれは、竹や葦を編み込んだもので、中国から伝わったと推測されている。日本最古の和歌集「万葉集」にもその記述があるほど古くからあり、平安時代には部屋の仕切りや日よけによく使われていたそうだ。現代ではカーテンが主流になり、すだれを知らない若い人も多い。調べてみて驚いたことは、そのすだれを使用した時の効果のすごさだった。すだれは、編んだ竹の一本一本に隙間ができるため、熱はさえぎるが、光や風は通してくれる。窓の外側に取り付けることで、窓に直射する夏の暑い太陽の熱量を抑える効果がある。自然の光で部屋は暗くなりすぎず、電気代を抑えるメリットがあるということだ。

実際に私はホームセンターですだれを購入し、リビングの窓の外に取り付けて、日中の部屋の温度変化を検証してみた。リビングの窓は北西に向いており、普段正午を過ぎると西日も強くなるため、部屋のクーラーを二十四度に設定しても、体感では三十度にまで感じている。すだれを設置してみて、まず西日の暑さが和らいだ。日の明るさは自然に入ってくるので、カーテンを閉めるよりも閉塞感を感じなかった。実際には、クーラーの設定を二十六度にまで上げても不快に思うことは少なかった。すだれ自体に水を吹きかけると、風が吹いた時に、より涼しさを感じることもできるそうだ。ほんのわずかな違いかもしれないが、連日の暑さ対策に私たちができる小さな工夫を発見できた気がする。

今、気候変動は深刻な国際問題であり、自分のこととして考えていかなければならない身近な課題だ。私が祖母の家で発見した新しい知識は、決して新しいものではなく、古来より伝わってきた先人の知恵なのだ。そんな知恵の詰まった手軽に出来る節電対策は、ぜひ世界にも広めたい文化だと思う。英語を使って紹介できるようになってみたい。きっと他にも、伝統や文化の中には現代の課題の解決の一助となるヒントが隠れているのかもしれない。昔から伝わってきた知恵から学び、現代に発展させていく温故知新の心を持って課題を考え続けたい。

（参考文献／すだれ資料館HP　https://sudare.com/）

受賞した感想　表彰式は緊張しましたが、みんなから拍手をもらえてうれしかったです。今後も、昔の人の知恵を生活に取り入れたり、人に紹介したりしていきたいです。エコツアーは、ほかの人の考えを知ることができて、よい経験でした。

優秀賞

最初の一歩を踏み出す勇気

東京都 昭和女子大学附属昭和中学校 3年
柳田 真緒

昨今、ニュースや天気予報を観ていると気候変動によって、人々の社会活動が阻害されている状況にあると感じる事が多くある。

私は小学校三年生の時、カナダへ旅行に行った。その時、氷河の融解が危惧されていることを知った。その時から、氷河融解や地球温暖化に興味を持つようになった。そして昨年、氷河融解についてより深く調べ、このまま氷河融解が進むと人間の社会活動や野生動物に現在よりも更に大きな損害が生じてしまうことを知った。

地球の危機的状況を感じた私に、できることはあるのではないかと考え、学校の環境活動団体であるオペレーショングリーンで活動を始め、学校の環境活動の促進に努めている。

学校には、大量のリサイクルできる紙が燃えるゴミに捨てられ、リサイクルされていない現状にあった。もともと私の学校には十年ほど前に取り付けた、紙資源のリサイクルを促進させるためのゴミ箱が各教室一つずつ設置してあった。だが、適切に使用されていない状況にあった。このままだと紙資源はリサイクルされなくなってしまうと思い、もう一度、紙資源専用のゴミ箱を全校で使ってもらうためにはどのような対策を立てれば良いのか考えた。紙資源専用のゴミ箱が継続して使用されなくなった背景には、ゴミ箱の使い方の引き継ぎが行なわれなくなったことや主導する人が曖昧になったことが原因と判明した。常に活動を進めることのできる、委員会と協力し、リサイクルを絶えず進められるようにした。委員会と協議を重ね、「リサイクルアドバイザー」として、各教室に二人以上リサイクルを主導する係を設置することにした。係の設置により、リサイクルを継続して行えるようになった。現在、数ヶ月にわたって計画してきた企画の実行段階に入っている。今後も私の作った基盤をもとに何十年も先までリサイクルが続くことを願っている。

一人の生徒の小さな一歩が、一つの学校の多くの生徒の大きな一歩になると思う。その動きは他の学校にも広がり、より大きな一歩となるのではないかと思う。そして、日本中でその動きが起きれば、世界に影響を与えることができるのではないかと思う。

私達は気候変動に対して行動できる最後の世代だと言われている。長期的なビジョンを実現するために、私自身がたくさんの人を巻き込みながら、一歩ずつ前に進みたいと思う。

最初の一歩を踏み出すことは、誰にも気づかないほど小さな一歩だと感じる。しかし、強い意志を持って行えば、他の人に影響を与え、前向きな変化をもたらすことができると思う。今後も、学校の環境活動に積極的に取り組みたい。

受賞した感想　学校でやってきた環境活動を整理するつもりで作文を書き、応募しました。受賞は本当にびっくりしました。表彰式後の依田さんの講演会が印象に残りました。特にナッジ理論※は今後の環境活動に取り入れたいです。

※ナッジ理論／罰則やルールで行動を強制することなく、小さなきっかけで人々の意思決定に影響を与え、行動の変化を促す手法・戦略

公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ

審査員からのメッセージ

審査員から作品を読んだ感想や講評をいただきました。

教育アドバイザー
清水 章弘

一歩、二歩。二歩前に出る。これが私からみなさんへのメッセージです。

皆さんは作文が選ばれてここにいるので、一歩目を踏み出しています。もう一歩出てほしい。アクションの後にリフレクションをやってほしいのです。リフレクションとは、やってみてどうだったのかを振り返ることです。今回起こしたアクションを振り返ってみる。来年また参加してくれる人がいたら、やってみてどうだったかというところまで踏み込んで、作文にまとめてくれたら、それがまた次のアクション、そしてリフレクションにつながり、さらに良い作文になっていくのではないかと思います。

作家
汐見 夏衛

私が子どものころから環境問題は非常に問題視されていました。当時はオゾン層の破壊や酸性雨が話題となっていて、危機感がありました。ところが私は人生の半分ぐらいまできて、意外と大丈夫だったという気持ちになっていたのです。

みなさんが真摯に考えて書いた作文を読み、未来の世界がどういう風になるかを考えたら、しっかり取り組まなければならない問題だと身の引き締まる思いがしました。若くて、エネルギーがあって、これからいろんなことをできるみなさんが、情けない大人に喝を入れながら、未来を守るために頑張っていってほしいです。

テレビ朝日お天気キャスター
気象予報士
東海大学海洋学部客員教授
依田 司

みなさんに三つの宿題を出したいと思います。①おじいさん、おばあさんに、子どものころと今、どう天気が変わったのかを聞いてください。②江戸時代を想像してください。電気も水道も車もない時代に、楽しい生活をしていた。今、取り入れられることはないでしょうか。③みなさんは受賞されました。ここで終わりにしないでください。10年後も今の気持ちを忘れずに、新しい疑問をどんどん深掘りして、自分にできることをしてほしいと思います。

気候変動について、みなさんは当事者なのです。真剣に考えて行動しないと食い止めることができません。三つの宿題、ぜひお願いします。

朝日新聞社執行役員 教育事業担当
朝日学生新聞社 取締役会長
高田 圭子

今回もクオリティの高い作品が寄せられました。みなさん文章が上手で、表現力も豊か。加えて具体的な行動がしっかり盛り込まれていて、説得力をもって迫ってきました。

生成AIの登場で、表面上とても整った文章がたくさん世の中に出てくると思います。そこで読者に訴えられる文章の根っこになるのは皆さんの体験です。みなさんの作文は情景がよく浮かびましたし、こういう体験を経てこのような提案が書かれたのだなということがよくわかりました。

表彰された経験もふまえて、体験力と表現力をみがいていっていただければと思います。

受賞の副賞として
1泊2日の環境エコツアーにご招待

東京都内をめぐり、環境について 学ぶ! 体験する! 考える!

表彰式後、受賞者たちはバスに乗りこみました。東京都内の施設をめぐりながら交流を深め、環境について考える「環境エコツアー」に出発です。学びと楽しさがつまったツアーの様子をリポートします。

1日目 気象科学館・港区立みなと科学館

東京タワーのすぐ近く、港区虎ノ門にある科学館です。建物の2階が気象科学館、1階が港区立みなと科学館となっています。

気象科学館は、気象や地震を観測する機器の展示や防災知識について学ぶ装置などがあります。台風と竜巻のしくみを観察できる「うずのすけ」では、実際にうずができると「なるほど」「きれい」と声が上がりました。

港区立みなと科学館では、身近な自然や街にある科学、人体、港区ならではの「港」を題材にさまざまな体験をしました。水流を体感できるシミュレーターやからだをスキャンする装置などに挑戦し、「ハイテクですごい」と夢中になりました。

2日目 スモールワールズ

東京湾岸エリアの有明は、競技場や展示場、ホテルなどが建ち並ぶ一方、国や都の広域防災拠点にもなっています。そんな有明にあるミニチュアミュージアムが「スモールワールズ」。足を踏み入れると、アジアやヨーロッパをモデルにした5つの国や宇宙センター、空港などが80分の1のサイズで広がります。

中学生、保護者はそれぞれ3、4人のグループにわかれ、タブレット端末を手にパーク内を見学。撮影した写真を使ってSDGsを伝えるポスターを作りました。

グループ発表では、「今の自然は美しい。だが、○○年後は?」とキャッチコピーで考えさせたり、2枚の写真を対比させてメッセージを伝えたりと、さまざまな工夫が見られました。「新しい視点に気づかされた」「とても心に響いた」などの感想があがり、多くの学びがありました。

2日目 KIGI

レストラン「KIGI」は、食を通した社会課題の解決を目指しており、環境や社会への配慮がなされた食材の調達に取り組んでいます。

この日のメニューは大豆ミートのハンバーグと有機栽培の野菜を使ったサラダやきんぴらなど。すべての料理が環境に配慮されていることに驚きつつ「おいしいね」と言い合いながら食事を楽しみました。

また、食品ロスを出さないよう、余りそうになった料理は分け合って食べきりました。

公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ

イオン1%クラブの活動紹介

「お客さまからいただいた利益を社会のために役立てる」という想いのもと、

イオングループの主要企業が税引前利益の1%相当額を拠出し、

子どもたちの健全な育成　諸外国との友好親善　地域の発展への貢献　災害復興支援

を主な事業領域として、環境・社会貢献活動に取り組んでいます。

子どもたちの健全な育成

環境・社会をテーマに、子どもたちが社会的なルールを学びながら身近な地域の問題を主体的に捉え、考える力を育てます。

諸外国との友好親善

学生たちに国際的な文化・人材交流の機会を提供し、相互理解を深めることで日本と諸外国との友好親善を深めます。

地域の発展への貢献

地域に根ざし、次代に引き継ぐべき伝統行事や文化の継承を支援するとともに、地域社会が抱える諸問題の解決に取り組みます。

災害復興支援

大規模災害により被災した方々が、日常の生活を一日でも早く取り戻せるよう、復旧・復興を支援しています。

イオン チアーズクラブメンバー募集中！
入会金・年会費無料

「イオン チアーズクラブ」では、小学生を中心として全国約420店のイオングループを拠点に、環境や社会貢献をテーマに体験プログラムを行っています。

詳しくはこちら　イオンワンパーセントクラブ　検索